

おだわら環境志民ネットワーク第1回意見交換会結果報告

(日 時) 平成28年7月31日(日) 午前8時30分～11時45分

(場 所) 市役所正面玄関→舟原ヒノキ林→久野林道→足柄幹線林道ゲート→市役所

(協 力) NPO 法人小田原山盛の会(兵頭昌雄(理事長)、川島範子(副理事長)、天野忠明、
柏木聰、柏木由紀、井上英利、杉崎修工、鈴木健嗣(日大3年生))
古林賢恒先生(元東京農工大森林生物保全学・元丹沢大山学術調査副団長)

(参加者) 別紙名簿のとおり

(行 程)

8:30	市役所正面玄関前	小田原市役所環境政策課・石井副課長より挨拶 行程について川島氏より説明 兵頭理事長より挨拶・会の取組について説明 参加者紹介
8:45	〃	出発(全5台に分乗)
9:15	舟原ヒノキ林	現場の状況・箱根の状況説明(川島氏) シカの冬場の食べ物について説明(柏木氏)
9:30	久野林道ゲート前	シカの餌場について説明(古林先生)
9:50	久野林道(採食痕・ヒノキ苗被害地)	現場案内(川島氏) 箱根産ブナ苗づくりについて説明(天野氏) ブナとササについて説明(川島氏) マルハナバチについて説明(兵頭氏)
10:45	〃	全体総括:箱根のシカ対策と森の豊かさについて (古林先生)
10:55	〃	質疑応答
11:00	〃	終了
11:10	足柄幹線林道ゲート	シカ調査班は箱根へ
11:45	市役所到着	解散

(概 要)

NPO 法人小田原山盛の会が定期的に行っているシカの食害調査について、現場紹介を兼ねて意見交換会を実施した。舟原ヒノキ林ではアオキの食害状況を観察。アオキはシカの冬場の主食になること(1頭あたり60～70㎡は捕食)、捕食の際に枝を折り樹皮まで採食するため枯死してしまう等の説明があった。現在はアオキが緩衝材となっているが、食圧が進み退行すれば、人工林に植栽されたヒノキ等が主食となってしまうため林業に甚大な被害が生じることとなる。久野林道では法面植物の採食痕や、オスジカが交尾期間中にかけて行う「角こすり」によるヒノキ苗(幼齢木)の剥皮被害の状況を観察した。また、法面植物の送粉者となる「マルハナバチ類」と法面植物の関係から、シカの食害を受ければマルハナバチが生

存出来なくなり、結果、他の季節に咲く花の繁殖に支障を来すことになるため、両者は常に絶滅の連鎖の危険にさらされている（「協同性ギルド」）ということの説明があった。

今のうちに迅速対策を講じなければ丹沢の二の舞になる、環境政策と農林業政策を一体的に進めていく必要がある等の問題意識の下、引き続き食害の状況等の調査を行うとともに行政への働きかけを行っていくとの山盛の会の活動趣旨が明確にされた意見交換会となった。



（舟原ヒノキ林にて）



（シカの食害を受けるアオキ）



（古林先生からシカの餌場について説明）



（久野林道にて）



（シカの角こすりを受けたヒノキ苗）



（参加者で集合写真）